

やませ地帯における畑作農業の改善と展開

第1報 やませ地帯における畑作農業の実態と問題点

藤原 武利・佐々木 誠*・中村 毅**・長崎 忠一***・鈴森 博***・石山 伸悦****

(岩手県農産普及課・*岩手農試県北分場・**岩手園試高冷地分場)
(*** 岩泉農業改良普及所・****久慈農業改良普及所)

Studies for Improving and Developing the Upland Field Cropping in the YAMASE District

1. Present state and problems

Taketoshi FUJIWARA, Takeshi SASAKI*, Takeshi NAKAMURA**,

Chyuichii NAGASAKI***, Hiroshi SUZUMORI*** and Sin-etu ISHIYAMA****

(Agricultural Production & Extension Section of Iwate-ken Government Office・Kenpoku Branch,

Iwate-ken Agric. Exp. Stn.,** Highland Cool Zone Branch, Iwate Horticultural Exp. Stn.,

*** Iwaizumi Agric. Extension Service Stn.,**** Kuji Agric. Extension Service Stn.)

1 ま え が き

本県の中北部沿岸，下閉伊内陸地域は偏東風（やませ）気象，社会経済的条件等の制約により最も生産性の低い地域とされてきた。

近年，道路交通網の急速な進展，社会経済的条件が好転し野菜などの商品作物の導入が可能となり，集約度の高い畑作農業への再編が急がれている。

ここで畑作農業と畑作地域振興対策が必要な理由を要約すると，

- (1) 水田利用再編対策が実施される中で，本県農業の発展と農業所得の増大を図るには，畑作物の生産振興が第1の条件である。
- (2) 農業の地域格差を是正するには，畑作地域の農業生産を高めることが重要で「古くて新しい課題」である。

2 中北部沿岸，下閉伊内陸地域の立ち遅れの原因

当該地域農業の立ち遅れ原因は，次の5点に要約される。

- (1) 地形，気象など自然立地条件に恵まれていない。
- (2) 道路，交通網の整備の立ち遅れから，市場立地条件に恵まれていなかった。
- (3) 農業経営規模が零細なうえ，雑穀や畜産を営まざるを得なかった。
- (4) 従って農家が地域農業の将来に，明るい希望を持っていなかった。
- (5) そのため，新しい作物の導入や各種施策の導入に意欲的になれなかった。

3 やませ気象と農業

- (1) やませ気象と営農試験へのとりくみ

昭和51年度の冷害を契機に，県北部沿岸地帯の農業改善方策の必要性から「やませ地帯現地実証展示は設置事業（県単，昭和52～53年）を実施した。

この成果を踏まえ，昭和54年度から新たに集落ぐるみで試験や営農を展開したのが「やませ地帯等営農試験地」である。

(2) やませ気象の概要

県北部沿岸地方は，海洋的気象で春から夏が涼しく，秋冬，春先にかけて温暖である。

特に，6月，7月，8月は偏東風（やませ）による海霧が内陸部まで流れ込み，日射量が著しく減少する。同時に低温をもたらす作物の生育を抑制する（図1）。

やませは，別名「凶作風」とも言われ，これまででもやませの被害を避ける工夫をしてきたが，水稻作のほかはこれといった対策もなく今日に至っている。



図1 やませが影響する地域

(3) やませ地帯の農業

当地域は水田面積が少ない畑作地帯で、生産性の低い麦、大豆、馬鈴薯等を栽培している(表1)。

また、経営規模の零細性と相まって兼業農家率が高い(表2)。

表1 経営耕地面積(昭和54年度)

市町村	(単位:ha)									
	総面積	水田	畑	普通畑	牧草畑	飼料畑	牧草専用畑	休畑	樹園地	桑園
久慈市	2,027	761	1,145	699	80	112	202	52	67	54
横市町	1,081	453	546	383	51	35	53	24	42	40
野田村	460	163	239	155	4	15	52	13	34	24
山形村	979	237	741	257	94	77	281	32	6	5
大野村	1,652	483	1,135	279	80	212	542	25	24	10
普代村	186	25	160	101	14	12	24	9	0.5	0.5
岩泉町	2,037	455	1,543	419	124	176	774	50	34	5
田野畑村	818	88	687	178	95	55	334	25	21	17
合計	9,240	2,665	6,196	2,471	542	694	2,262	230	228.5	150.5
同上比率(%)	100	28.8	(100)	(39.9)	(8.7)	(11.2)	(36.5)	(3.7)	2.5	1.6

表2 専業別農家戸数と兼業内容割合(昭和54年度)

市町村	戸数	農家戸数(戸)	専業(戸)	兼業内容割合(%)						
				兼業1(戸)	兼業2(戸)	計(戸)	林・漁業(%)	その他自営業(%)	恒業(%)	出かせ日(%)
久慈市	2,777	212	309	2,256	2,565	3.9	7.1	24.4	42.3	22.3
横市町	1,411	56	214	1,141	1,355	13.2	5.0	24.2	37.1	20.5
野田村	616	35	90	491	581	11.5	4.9	22.0	43.7	16.9
山形村	686	62	273	351	624	4.2	4.3	11.4	35.4	44.7
大野村	947	128	214	605	819	2.0	5.6	13.1	53.8	25.5
普代村	347	26	36	285	321	17.4	9.7	15.3	34.9	22.7
岩泉町	1,915	281	532	1,102	1,634	8.8	6.6	27.0	9.1	48.5
田野畑村	728	52	177	499	676	15.4	7.8	19.4	16.6	40.8
合計	(100%)	9,277	852	(19.6)	1,845	(71.4)	8.1	6.4	21.9	33.5

4 試験方法

本試験は、やませ気象を克服する野菜等商品作物を導入する場合の、阻害要因となっている問題点の解析をしながらか新作物の栽培試験と併せて集落内農家で栽培実証、共同販売を試みた。

(1) 試験実施期間

昭和54年度から58年度まで(5年間)

(2) 試験構成

本試験は、技術改善試験と団地営農試験の二部門で構成し、実施は両者が相互の連けいをはかりながら試験、調査、分析をし、新たな問題点を抽出する循環方式(ローリング・システム)により実施した。

1) 技術改善試験

ア. 試験地ごとに試験は場30アールを設置、やませ気

象を活用した作物を栽培、試験する。

イ. 畑、労働力を合理的に活用した作付体系の確立、適品目の選定、現地適応実証などを行ない、成果を集落内に役立てようとする。

ウ. 試験は試験担当農家を中心に、農試県北分場、園試高冷地分場が担当し、普及所、専技室が協力して実施する。

2) 団地営農試験

ア. 集落内農家のうち3戸を精査農家として選定する。精査農家は技術改善試験の結果を率先して取り入れ、経営を改善すると共に記録をとる。

イ. 集落内農家も各自の経営条件に応じ、新しい作物を導入し経営構造の再編をはかる。

ウ. 機械、土地、労働の交換利用を推進する。

エ. 集落が一体となって、生活環境の改善をすすめる。

オ. 本試験は、農家の意欲のもとに、普及所、専技室、関係機関、団体が参画し、集落全体の生産力と農業所得を高めるよう実践的調査研究を行う。

(3) 試験地設置場所及び集落名

久慈市侍浜、麦生部落(農家戸数46戸)

岩泉町二升石、二升石部落(農家戸数66戸)

田野畑村浜岩泉、浜岩泉部落(農家戸数16戸)

5 やませ地帯の農業の特徴

以上、やませ地帯の農業を要約すると次のとおりである。

(1) 経営規模が零細で傾斜地が多く、かつ基盤整備が遅れており機械化作業が出来ず、農具による手作業が多い。

(2) 経営規模の小さいことから、第二種兼業農家が多く、兼業内容も出稼ぎ、日雇など不安なものが多くなっている。なお、特徴は、林業、漁業を兼業としている農家が多い。

(3) 農業従事者は、酪農など一部畜産農家をのぞいては、婦人労働が主体をなしている。

(4) 畑面積規模が小さいことが、畑作にかかる期待を薄いものにし、これが肥培管理技術の低下と畑地の粗放化をまねている。

このように、そのままにしておけば経営の縮小により、じり貧化して行く悪循環をたち切り、拡大再生産の方向に再編して行こうとするのが、本試験の目的である。